

併願パターン例

自分に合った併願パターンで合否判定の機会を増やすことができます。

例1 一度の受験で多くの合否判定の機会がほしい

T日程入試と英語外部試験利用入試の併願で複数の学部・学科を一度に受験することが可能です。

- ☐ T日程入試および英語外部試験利用入試は同一科目パターンの中で併願が可能です。
- ☐ T日程入試と英語外部試験利用入試との併願が可能です。
- ☐ 両入試とも併願割引が適用され、2件目以降の入学検定料は15,000円になります。

大学入学共通テスト利用入試B方式・C方式は複数学部への併願が可能です。

- ☐ 大学入学共通テスト利用入試B方式およびC方式は複数学部への併願が可能です。
- ☐ 大学入学共通テスト利用入試B方式とC方式、両方式の併願が可能です。

例2 特定の学部で学びたい

A方式入試は学部や学科ごとに試験日を設定しているため、試験日が異なる学部・学科の併願が可能です。

学科を変えて同一学部を併願する場合

- ☐ 法学部Ⅰ日程：国際政治学科 (2月8日)
- ☐ 法学部Ⅱ日程：法律学科または政治学科 (2月16日)

同一系統の学部を併願する場合

- ☐ 経営学部 (経営学科)Ⅰ日程 (2月7日)
- ☐ 経営学部 (経営戦略学科または市場経営学科)Ⅱ日程 (2月8日)
- ☐ 経済学部 (国際経済学科または現代ビジネス学科)Ⅰ日程 (2月9日)
- ☐ 経済学部 (経済学科)Ⅱ日程 (2月12日)

例3 入学したい学部・学科が決まっている

同一学部・学科を異なる入試方式で複数回受験することにより、合否判定の機会が増えます。学部・学科によっては、最大5併願が可能です。

- ☐ T日程入試 ☐ 英語外部試験利用入試 ☐ A方式入試
- ☐ 大学入学共通テスト利用入試B方式 ☐ 大学入学共通テスト利用入試C方式

例4 学びたい系統・分野が決まっている

同系統の学部の入試を組み合わせることで、合否判定の機会が増えます。
また、A方式入試は試験日が異なれば同一学部であっても併願が可能です。

経済・経営学系希望の場合

- ☐ T日程入試：経済学部、経営学部を併願 (2月5日)
- ☐ 英語外部試験利用入試：経済学部国際経済学科 (2月5日)
- ☐ A方式入試：経営学部Ⅰ日程 (2月7日)
経営学部Ⅱ日程 (2月8日)
経済学部Ⅰ日程 (2月9日)
経済学部Ⅱ日程 (2月12日)
- ☐ 大学入学共通テスト利用入試：
B・C方式それぞれで経済学部、経営学部を併願

心理学系希望の場合

- ☐ T日程入試：文学部心理学科、
現代福祉学部臨床心理学科を併願 (2月5日)
- ☐ 英語外部試験利用入試：現代福祉学部臨床心理学科 (2月5日)
- ☐ A方式入試：文学部Ⅱ日程心理学科 (2月8日)
現代福祉学部臨床心理学科 (2月9日)
- ☐ 大学入学共通テスト利用入試：
B・C方式それぞれで文学部心理学科、
現代福祉学部臨床心理学科を併願